

## 35

## 放射線科医がCT・MRIの読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

国立大学  
病院

## 指標の意義

高度な医療を提供するためには、画像診断をより早く、より正確に行う必要となります。放射線専門医によるCT・MRI検査の画像診断レポートが翌診療日までに作成された割合を表現する指標です。算式は画像診断管理加算2の算定要件（80%以上）とする。

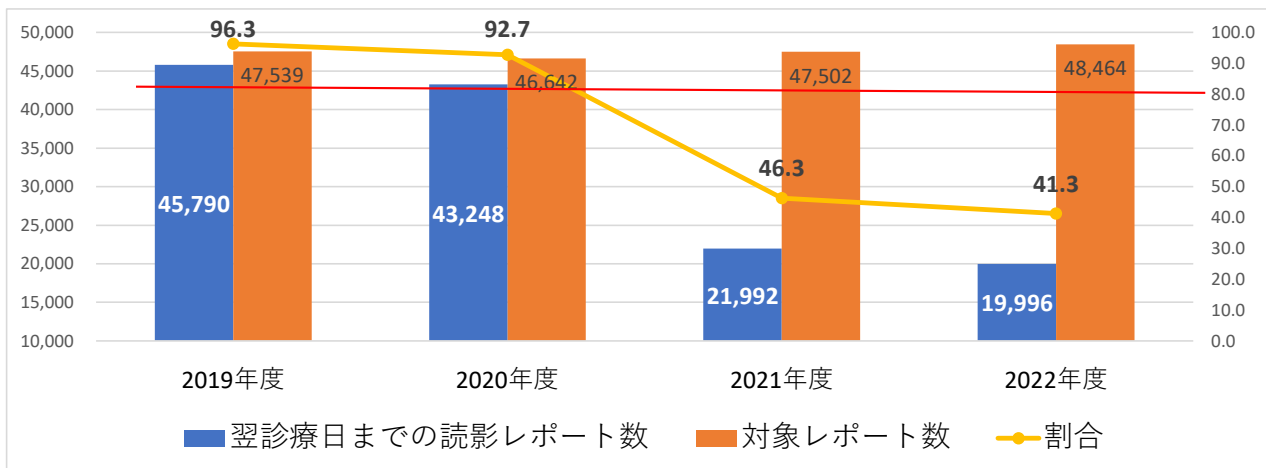
## 定義

**分子** 常勤・放射線専門医が検査翌診療日までに読影レポートを作成したCT・MRI検査読影件数×100

**分母** CT・MRI検査数（ただし、検診は除く）

## 当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
翌診療日までの読影レポート数	45,790	43,248	21,992	19,996	(件)
対象レポート数	47,539	46,642	47,502	48,464	
割合	96.3	92.7	46.3	41.3	(%)



## 指標の説明

常勤・放射線専門医の退職により、2021年度より『画像診断管理加算2』の算定を外し、『画像診断管理加算1』に変更した。また、対象レポートを非常勤・放射線専門医による読影レポートを加えた。

## 36 放射線科医が核医学検査の読影レポート作成を翌営業日までに終えた割合

国立大学  
病院

## 指標の意義

指標No.35と同様に、核医学・PET-CT検査における適切な画像診断がなされていることを表す指標です。常勤・放射線専門医による核医学・PET-CT検査の画像診断レポートが翌診療日までに作成された割合を表現する指標です。算式は画像診断管理加算2の算定要件（80%以上）とする。

## 定義

分子

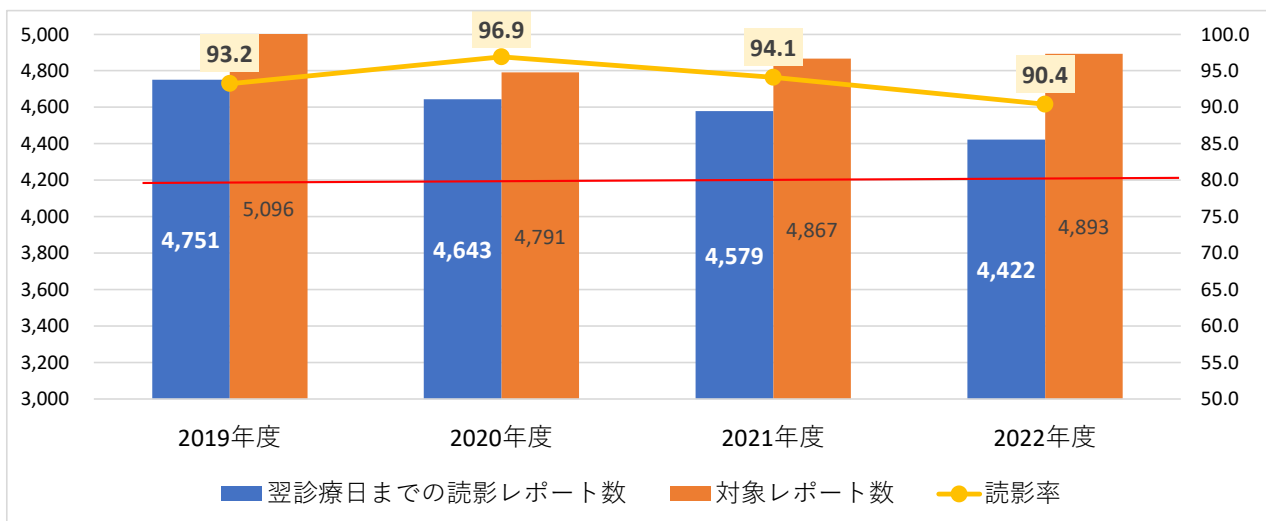
常勤・放射線専門医が検査翌診療日までに読影レポートを作成した核医学・PET-CT検査読影件数  
×100

分母

核医学・PET-CT検査数（ただし、検診は除く）

## 当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
翌診療日までの読影レポート数	4,751	4,643	4,579	4,422	(件)
対象レポート数	5,096	4,791	4,867	4,893	
読影率	93.2	96.9	94.1	90.4	(%)



## 指標の説明

常勤・放射線専門医の退職により、2021年度より『画像診断管理加算2』の算定を外し、『画像診断管理加算1』に変更した。また、対象レポートを非常勤・放射線専門医による読影レポートを加えた。

37

## 読影レポート既読率

自院

## 指標の意義

画像診断を依頼した医師の画像診断報告書の確認不足が患者の治療に影響した事例が散見されている。依頼医が、対象レポートを確認したかを示す指標です。既読管理対象レポートは放射線専門医が読影したCT・MRI・PET-CT検査レポートとする。

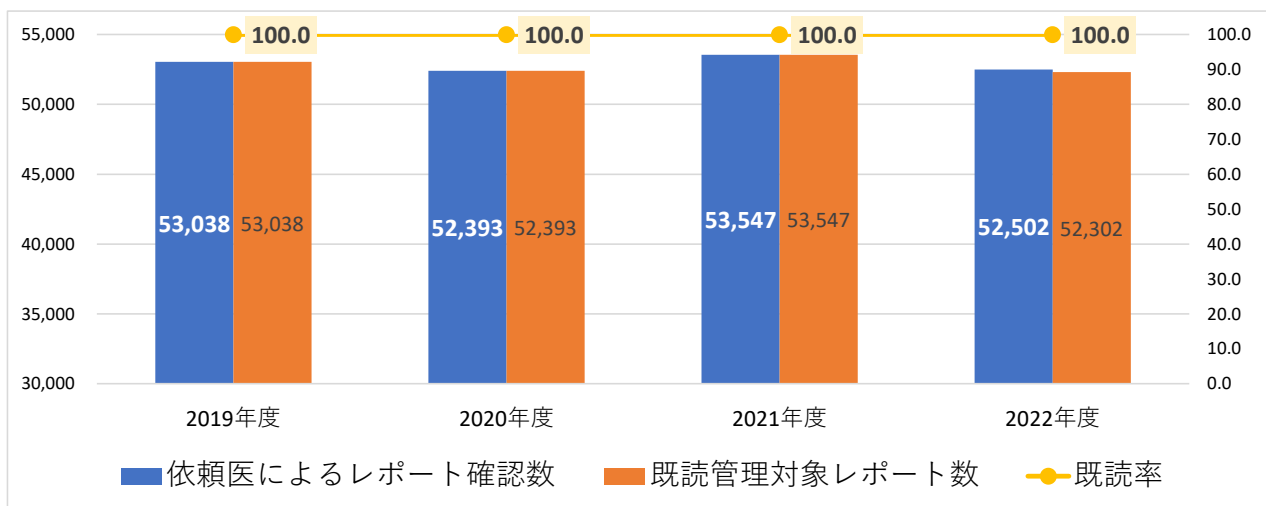
## 定義

**分子** 依頼医が読影レポートを確認した数×100

**分母** 既読管理対象レポート数

## 当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
依頼医によるレポート確認数	53,038	52,393	53,547	52,502	(件)
既読管理対象レポート数	53,038	52,393	53,547	52,302	
既読率	100.0	100.0	100.0	100.0	(%)



## 指標の説明

依頼医は、該当レポートを確認したときに、レポート上部にある『確認ボタン』をチェックすることにより、レポートを『確認済』とする。当科では、RMQC室と連携し、未確認レポートの一覧を依頼医に検査4週間後に1次通達を行い、確認を促している。さらに、8週間後に未確認レポート一覧を再出力し、診療科責任者に通達し、責任者からレポート確認を依頼し、9週間後に、未確認レポートに対して、病院幹部に報告し、依頼医への指導をしている。上記の体制をとり、対象レポートの100%確認済を維持している。

38

## 病理組織診断件数

国立大学  
病院

## 指標の意義

がんの正確な診断は病理診断により行われ、これに基づき的確な治療が選択されます。組織診断件数はがんの診療において、正確な診断が行われたことを示す指標となります。

## 定義

病理組織診断件数 = 生検検体数 + 術中迅速検体数 + 手術検体数

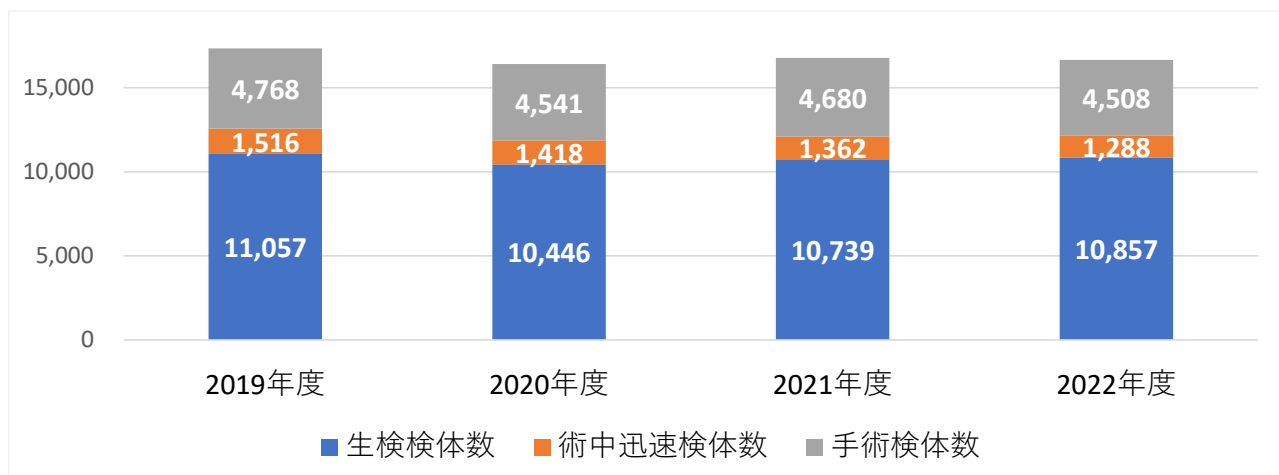
※生検診断は、組織の一部を採取して良性・悪性の判定や治療の選択をする（生検検体）

※術中迅速診断は、手術中にがんの広がりや転移の有無を診断する（術中迅速検体）

※手術検体の病理組織検査は、術後の治療選択のためにがんの悪性度や進行度を詳しく調べる

## 当院の実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	(単位：件)
生検検体数	11,057	10,446	10,739	10,857	
術中迅速検体数	1,516	1,418	1,362	1,288	
手術検体数	4,768	4,541	4,680	4,508	
病理組織診断件数	17,341	16,405	16,781	16,653	



## 指標の説明

過去3年間の病理組織診断件数を表とグラフで示しています。検査総数は病理診断の有用性を反映して、多い状態を維持しています。組織生検検体はがんの最終診断に加えて、分子標的治療の適否を決めるための分子診断にも用いられています。当院では術中迅速診断の件数が多く、手術の質を高めています。また、すべての手術検体に対して病理組織検査が行われており、術後の補助療法の選択に役立っています。